

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-141	24-416	京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座 鶴身孝介 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)		
Des-acyl ghrelin reduces alcohol intake and alcohol-induced reward in rodents デアシルグレリンは、げっ歯類のアルコール摂取量とアルコール誘発性報酬を減少させる。		
執筆者		
Sarah Witley, Christian E Edvardsson, Cajsa Aranäs, Maximilian Tufvesson-Alm, Darta Stalberga, Henrik Green, Jesper Vestlund, Elisabet Jerlhag		
掲載誌		
Transl Psychiatry . 2024 Jul 4;14(1):277. doi: 10.1038/s41398-024-02996-8.		
キーワード		PMID
アルコール、グレリン、報酬		38965230
要 旨		
目的： アルコール報酬を強化する食欲刺激ペプチドであるグレリンは、体内循環の大部分が報酬プロセスにおける役割が不明な非オクタノイル化グレリン (DAG) であり、食欲抑制効果が知られている。その DAG が動物モデルにおけるアルコール関連反応を抑制するかを検討すること。		
方法： DAG 投与によるアルコール摂取量や脳内ドパミン代謝物レベルの変化を調査した。		
結果： 急性および反復的な DAG 投与により、雄および雌のラットでアルコール摂取量が用量依存的に減少した。アルコールを摂取する雄のラットでは、DAG の反復投与により、腹側被蓋野におけるドパミン代謝物のレベルが上昇した。一方、DAG は記憶の中枢である海馬におけるアルコール報酬の記憶や神経伝達を変化させなかった。さらに、循環する DAG のレベルは、雌のラットではアルコール摂取量と正の相関を示したが、雄では示さなかった。		
結論： 本研究は DAG がげっ歯類におけるアルコール関連反応を抑制し、グレリンの作用と逆の効果を示すことを示し、グレリンシグナル伝達経路によって調節される行動の複雑さが明らかになった。		